

今年度の活動

2016 年度より IAMAS に赴任し、研究体制を整えた 1 年であった。

個人研究として、科学研究「1960～70 年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」において、日本戦後美術の資料化に関する研究手法の確立を目的とし、国立新美術館にて研究会を行った。また、日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブへの参加を通じて、他大学、他機関との連携による研究体制の強化を図った。

IAMAS での共同研究としては、平成 28 年度「メディア芸術アーカイブ推進支援事業」（文化庁）において「三輪眞弘メディア・パフォーマンス作品の保存・修復・資料化プロジェクト」を実施し、本学のメディア表現研究の方法論について検討した。あわせて受託研究として、平成 28 年度「文化庁メディア芸術所蔵情報等整備事業」メディア・アート分野の業務を担当し、調査研究を実施した。新規に始めた活動としては、赤松正行教授を中心に実施した「クリティカル・サイクリング」（研究会）に参加した。また、20 周年記念事業として、「Calculated Imagination IAMAS が発信するメディアアート」展の企画に携わった。



研究会の様子（2017 年 2 月 17 日、国立新美術館）

◎講演、その他

【講演】2016 年 9 月 8 日“Generating Creative Contexts: Projects in today’s IAMAS” Christa Sommerer, Victoria Vesna, Jared Donovan, Katrin Wolf, Don Ritter, Erkki Huhtamo, Machiko Kusahara, Hiroo Iwata, Wang Zhigang, Stahl Stenslie (Linz University of Arts Department of Media)

【シンポジウム】2016年11月6日「文化庁メディア芸術祭20周年企画展 変える力」連携企画「メディア・パフォーマンスとは何か？ IAMAS20周年から考える」川崎弘二、三輪眞弘、伊村靖子、3331Arts Chiyoda

【シンポジウム】2016年11月12日「戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学」松井茂、飯田豊、川崎弘二、中西博之、原久子、赤羽亨（キャンパスプラザ京都第4講義室）

【研究会】2017年2月17日「1960～70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」鈴木勝雄、松井茂、平野泉、齋藤歩（国立新美術館）

【キュレーション】2017年3月10日～16日「Calculated Imagination IAMASが発信するメディアアート」展（ラフォーレミュージアム原宿）

◎テキスト

【活動報告】伊村靖子、馬定延「国際シンポジウム「メディアと芸術のあいだ——ヤシャ・ライハートの60年代の「展覧会」を読み解く」『国立院美術館研究紀要|NACT Review』第3号、2016年11月、pp. 340-351

【インタビュー】谷口英理、伊村靖子、馬定延、長名大地「美術資料をめぐる回想 杉浦康平氏に聞く——1960年代の東京画廊のカタログデザインを中心として」『国立院美術館研究紀要|NACT Review』第3号、2016年11月、pp. 408-439

【研究ノート】伊村靖子「汎用技術と表現——60年代美術において「デザイン＝設計」が意味するもの」『情報科学芸術大学院大学紀要』第8巻、2017年3月、pp. 142-148

◎海外研修

2016年9月4日～9月11日（オーストリア、リンツ）

◎社会的活動

国立新美術館客員研究員

日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ メンバー

「1960～70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」（科研費 15K02129）

◎学内の活動

【授業】デザイン特論A

【授業】IAMAS 図書館・アーカイブ・プロジェクト